

中小企業景気動向調査

〔2015年4～6月期の景況/7～9月期の予想〕

【調査要項】

実施期間:2015年5月20日～6月5日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 998社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	432	137	66	32	155	43	39	94	998
回答数	389	127	60	29	144	40	35	81	905
回答率(%)	90.0	92.7	90.9	90.6	92.9	93.0	89.7	86.2	90.7



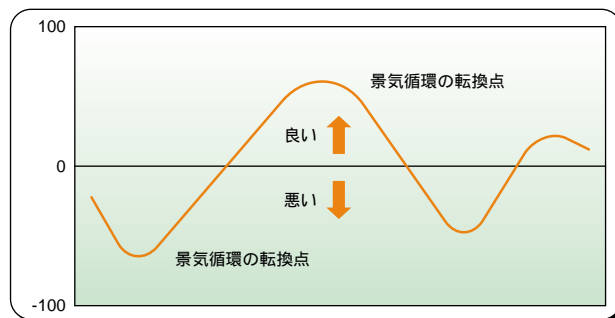
DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

4～6月期の景況

景況感2四半期ぶりに悪化。

自動車部品製造業 再びマイナスへ。新車販売などが振るわず。

機械器具部品製造業 予想を下回り増勢が鈍化。

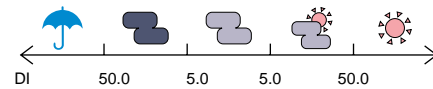
飲食業と不動産業は三四半期連続の改善。

7～9月期の予想

業況判断DI小幅改善へ。

製造業が牽引。非製造業は横ばい。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	1～3月期 (前回)	4～6月期 (今回)	7～9月期 (予想)	業種	1～3月期 (前回)	4～6月期 (今回)	7～9月期 (予想)
全産業	0.3	5.2	2.5	印刷	27.3	50.0	63.6
製造業	3.9	11.9	4.7	食料品	28.6	0.0	10.3
非製造業	2.6	0.2	0.8	卸売業	10.5	3.1	5.5
自動車部品	1.0	18.0	8.0	小売業	13.6	13.4	18.6
機械器具部	14.9	6.8	11.2	飲食業	20.0	17.3	14.8
金属製品	11.8	5.5	16.7	建設業	11.8	2.1	3.5
窯業・土石	57.9	41.1	40.0	不動産業	13.2	15.0	5.0
木材・木製品	33.3	42.8	42.9	運輸業	18.2	0.0	5.9
繊維製品	15.4	7.7	3.9	サービス業	12.7	8.7	1.3

業況判断

	前回	今回	予想	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	0.3	5.2	2.5	-4.9		2.7	
製造業	3.9	11.9	4.7	-8.0		7.2	
非製造業	2.6	0.2	0.8	-2.8		-0.6	

(単位：%ポイント はマイナス)

【全産業】

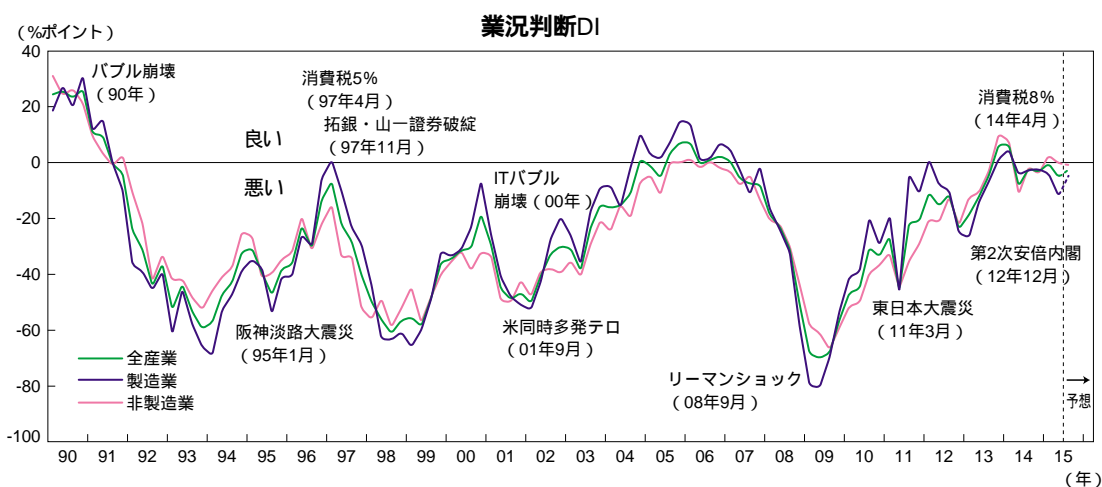
4～6月期の企業の景況感を表す業況判断DI（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.2となり、1～3月期（マイナス0.3）にくらべ4.9ポイント悪化した。悪化は2四半期ぶり。

7～9月期の予想業況判断DIはマイナス2.5と、2.7ポイント改善する見通し。製造業が牽引。

【製造業】

業況判断DIはマイナス11.9。1～3月期（マイナス3.9）にくらべ8.0ポイント悪化。2四半期連続の悪化。

- ・ DIが改善したのは、窯業・土石、繊維製品、食料品。悪化したのは、自動車部品、機械器具部品、金属製品、木材・木製品、印刷。
- ・ 自動車部品は、大幅に悪化。自動車販売が振るわなかったことや、新車投入の狭間にあったことが主因とみられる。
- ・ 機械器具部品は、7四半期連続のプラスとなったが、前回調査時の予想DIを大きく下回り、これまでの増勢が鈍化した印象もある。
- ・ 食料品は、2007年10～12月期以来7年ぶりにマイナスを免れた。業況を「良い」と答えた企業が急増。



予想業況判断DIはマイナス4.7と、7.2（%ポイント）ポイント改善の見通し。

- 自動車部品、機械器具部品、金属製品、窯業・土石、繊維製品が改善の見通し。木材・木製品、印刷、食料品は悪化の予想。

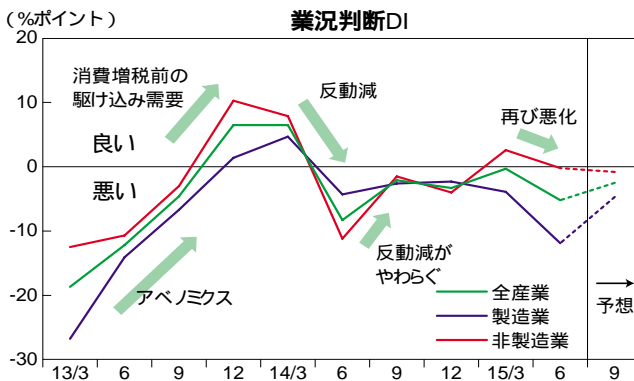
〔非製造業〕

業況判断DIはマイナス0.2。1～3月期（2.6）に比べ2.8ポイント悪化。

- DIが改善したのは、卸売業、小売業、飲食業、不動産業。悪化したのは、建設業、運輸業、サービス業。
- 卸売業は、農畜産物・水産物卸、食料・飲料卸、機械器具卸の景況感が改善する一方、建設材料卸は大幅に悪化。
- 飲食業と不動産業は3～4月期連続の改善。とくに不動産業を取り巻く環境が好転している。
- 建設業は1年ぶりに悪化したものの、10～12月期連続でプラスを維持。公共工事を主体とする企業は振るわなかったが、回復の遅れていた住宅建設を主体とする企業に改善がみられた。
- 運輸業は1年ぶりの悪化。燃料が再び値上がりしており、これがマインドに影響したとみられる。
- サービス業は、法人向けサービスが悪化。個人向けサービスには改善がみられたが、法人向けが全体を牽引する構図は変わっていない。

予想業況判断DIはマイナス0.8。おおむね横ばい推移する見通し。

- 卸売業、飲食業、建設業で改善を見込む。卸売業はプラス浮上を予想。
- 運輸業とサービス業はマイナスへ転じる見通し。



		4～6月期の業況	
		改善した業種	悪化した業種
製造業	窯業・土石 繊維製品 食料品	自動車部品 機械器具部品 金属製品 木材・木製品 印刷	
	卸売業 小売業 飲食業 不動産業	建設業 運輸業 サービス業	

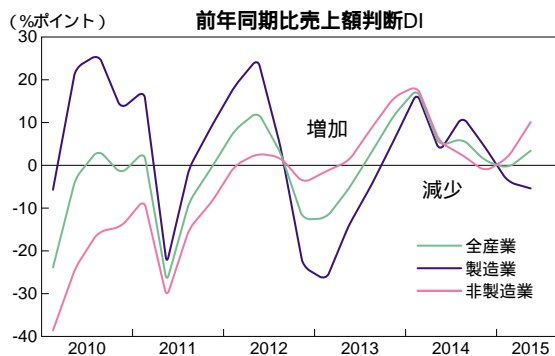
		7～9月期の予想	
		改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品	木材・木製品 印刷 食料品	
	卸売業 飲食業 建設業	小売業 不動産業 運輸業 サービス業	

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は3.4〔増加〕。

前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス2.7〔減少〕。

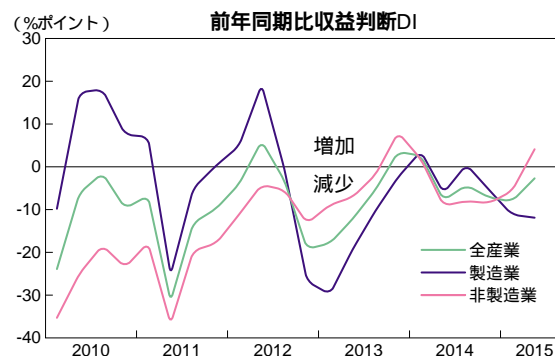


〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス5.4〔減少〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス11.9〔減少〕。

- ・ 機械器具部品は7四半期連続の増収増益。



		前年同期にくらべた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業	<p>機械器具部品 金属製品</p>	<p>自動車部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品</p>	
非製造業	<p>卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業</p>		

		前年同期にくらべた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業	<p>機械器具部品</p>	<p>自動車部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品</p>	
非製造業	<p>小売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業</p>	<p>卸売業 飲食業</p>	

〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは10.1〔増加〕。

前年同期比収益判断DIは4.1〔増加〕。

- ・卸売業と飲食業を除いた業種で増収増益。昨年4～6月期は消費増税前の駆け込み需要の反動で一般的に売上・収益が落ち込んでいたが、その影響もある。
- ・小売業の増収増益は2006年4～6月期以来9年ぶり。運輸業は7四半期連続の増収増益。

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.5〔上昇〕。

仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は27.9〔上昇〕となった。

〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス3.2〔下落〕。

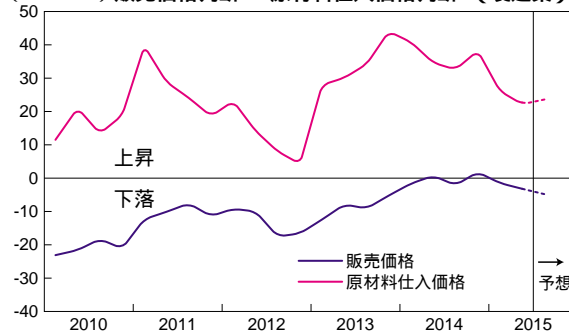
原材料仕入価格判断DIは22.2〔上昇〕。

〔非製造業〕

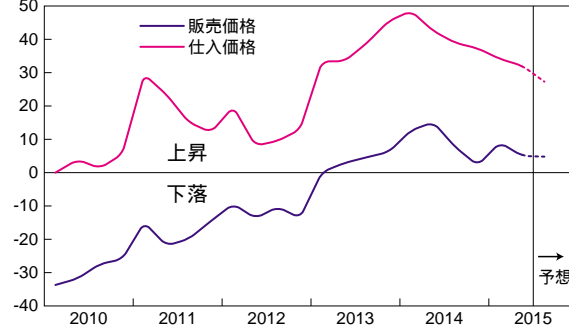
販売価格判断DIは5.0〔上昇〕。

仕入価格判断DIは32.1〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



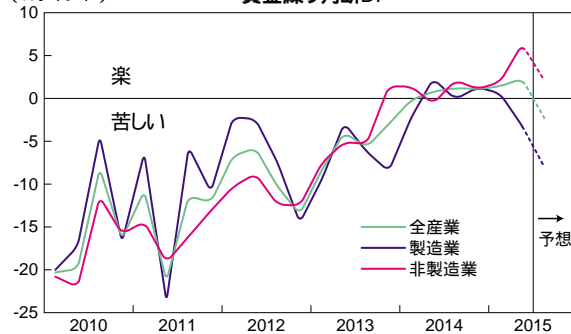
資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）は2.3〔楽〕。



予想資金繰り判断DIはマイナス2.3〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



予想人手過不足判断DIはマイナス25.8〔不足〕。

- ・ 運輸業の人手不足は深刻。約7割の企業が経営上の問題点に「人手不足」をあげている。

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	人手過剰	 窯業・土石 印刷	自動車部品 機械器具部品 金属製品 木材・木製品 繊維製品 食料品
	人手不足		卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

設備

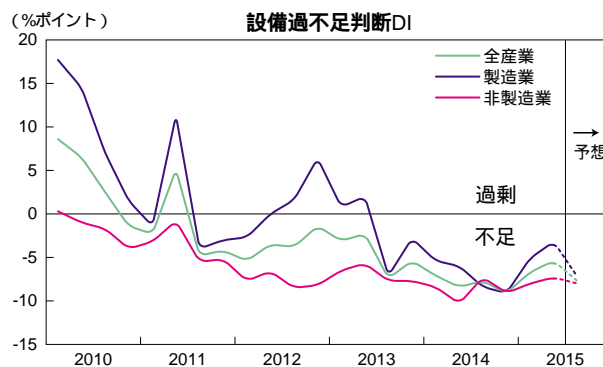
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.4〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.7〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.0%。

7～9月期に設備投資を計画している企業は29.6%。

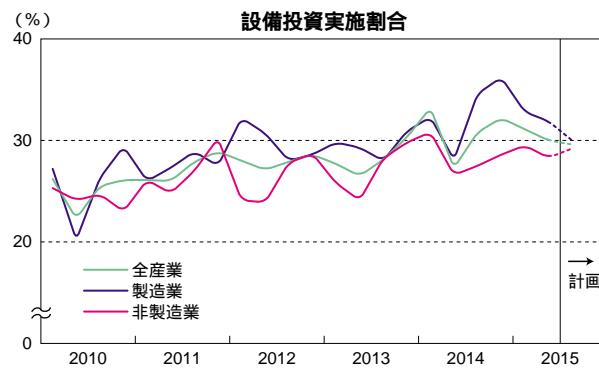


〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス3.2〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.2〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は31.9%。



- ・ 内訳は、「機械・設備の新増設」が54.2%、「機械・設備の更改」が34.7%、「車両」が16.1%、「事業用の土地・建物」が13.6%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的は、「能力増強」が37.3%、「老朽化にともなう更新」が36.4%、「合理化・省力化」が27.1%などとなった。

7～9月期に設備投資を計画している企業は30.0%。

〔非製造業〕

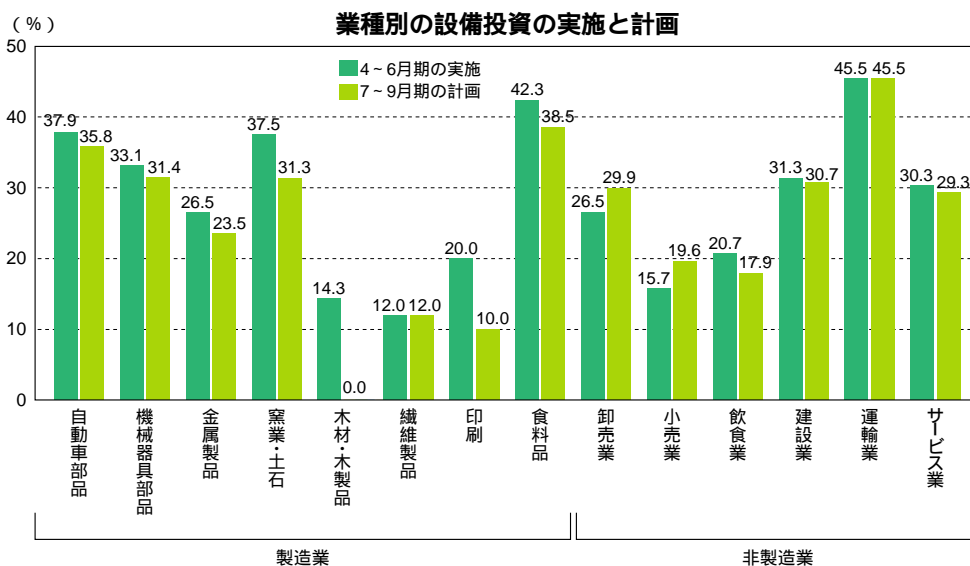
設備過不足判断DIはマイナス7.3〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス8.0〔不足〕。

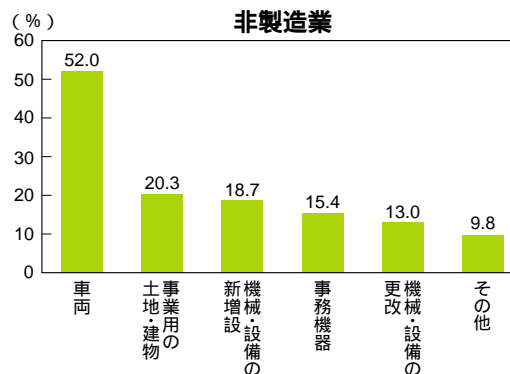
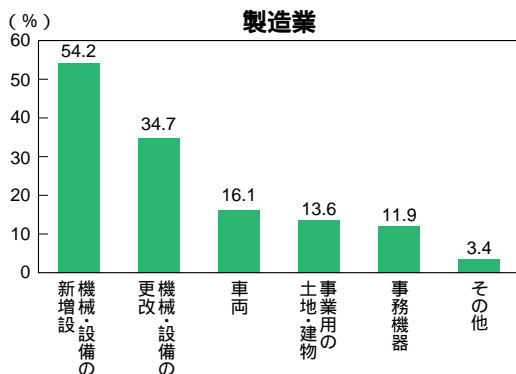
4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.3%。

- ・内訳は、「車両」が52.0%、「事業用の土地・建物」が20.3%、「機械・設備の新増設」が18.7%、「事務機器」が15.4%などとなっている。
- ・設備投資の目的は、「老朽化にともなう更新」が52.0%、「販売拡大」が26.0%、「競争力の維持・強化」が20.3%、「合理化・省力化」が14.6%などとなった。

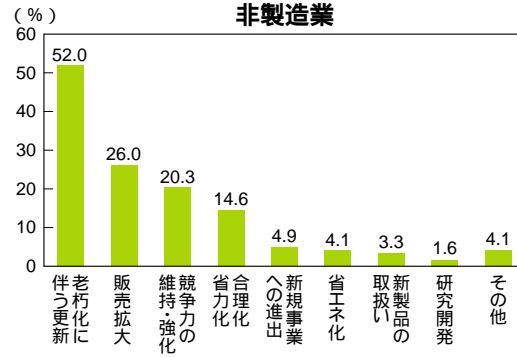
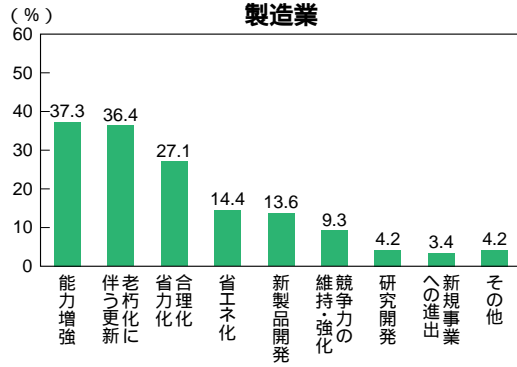
7～9月期に設備投資を計画している企業は29.2%。



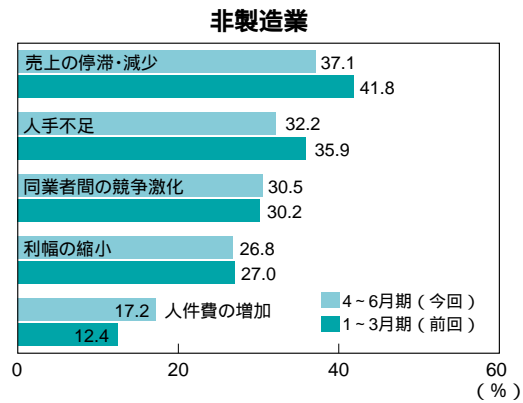
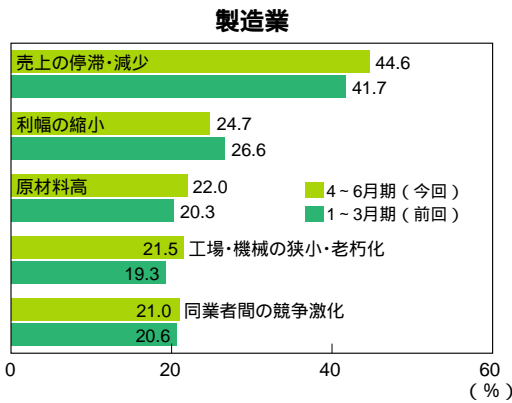
4～6月期の設備投資の内訳



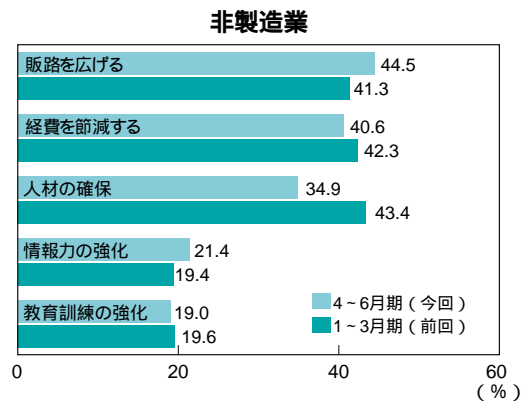
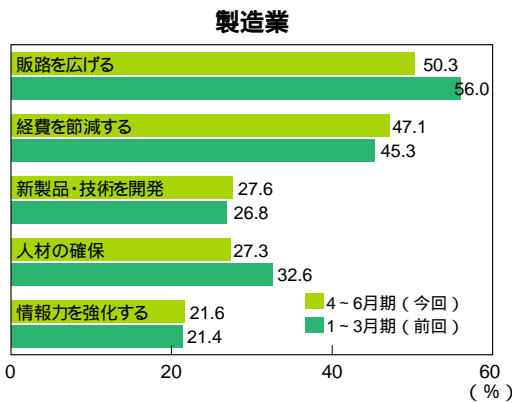
4～6月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

4～6月期の景況 新車販売が振るわずDI悪化、減収減益3期連続

7～9月期の予想 予想DIもマイナス、先行き慎重な構え崩さず

4～6月期の景況

業況判断DIは 18.0となり、1～3月期(1.0)にくらべ悪化。ふたたびマイナスに陥った。自動車販売が振るわなかったことや、新車投入の狭間にあったことが主因とみられる。

足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DIは 13.0〔減少〕、同収益判断DIは 27.0〔減少〕と、3四半期連続の減収減益。

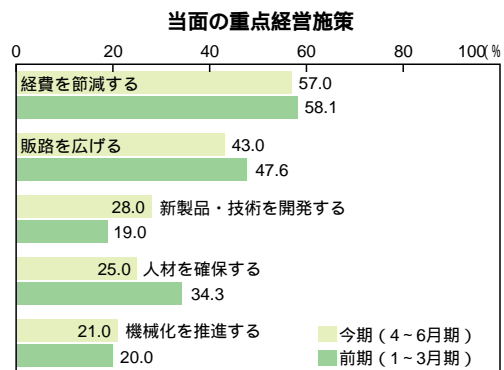
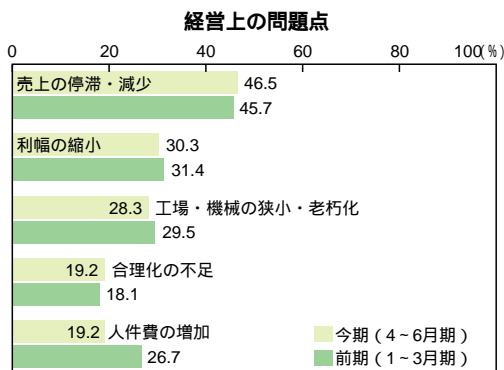
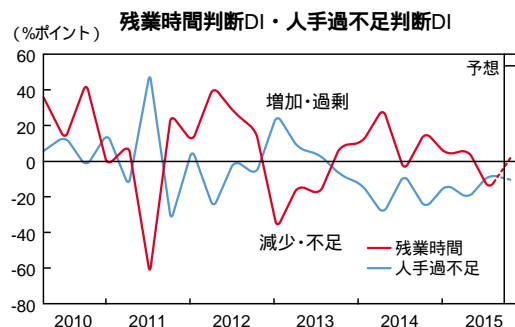
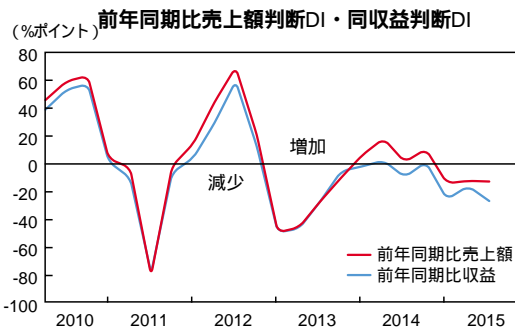
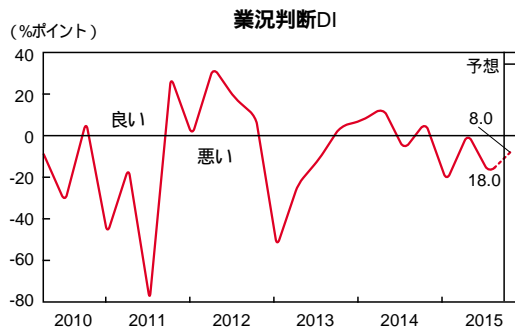
人手不足は依然として続いているが、以前のような不足感の広がりには収まりつつある。残業時間も減少に転じている。

7～9月期の予想

予想業況判断DIは 8.0。4～6月期にくらべ改善する見通しとなった。

トヨタ自動車が国内の増産を計画しており、多少とも増収を見込む部品メーカーが増えそうだが、先行き慎重に構える企業も少なくない。残業時間は再び増加する見込み。

当面の重点経営施策では「新製品・技術を開発する」のポイント増加が目立つ。



4～6月期の景況 …… 業況判断DI予想を下回る、増勢に鈍化の兆し

7～9月期の予想 …… マインド改善の見通し、受注残は減少へ

■4～6月期の景況

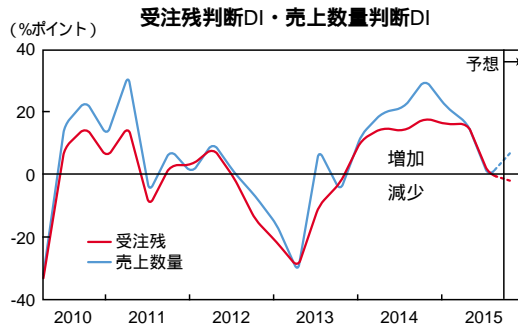
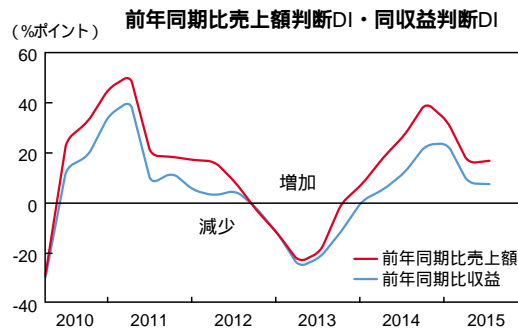
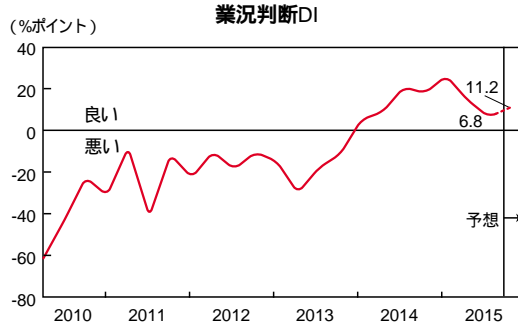
業況判断DIは6.8と、7四半期連続のプラスとなった。足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DIや同収益判断DIもプラスを維持し、全体の景況感としては悪くない。国内外の機械需要は、おおむね堅調とみられる。

ただ、業況判断を1～3月期(14.9)とくらべると8.1ポイント低下している。低下は2四半期連続。前回調査時の予想(17.8)も大きく下回った。ここ2年ほどは予想を常に上回る結果が続いていたが今回は予想を下回った。受注残や売上数量の判断DIも前回の予想を下回り、これまでの増勢が鈍化している印象を受ける。外需の一部がやや弱含んだのが影響したのではないか。受注残判断DIは辛うじてプラス〔増加〕。売上数量判断DIは7四半期ぶりに減少に転じた。

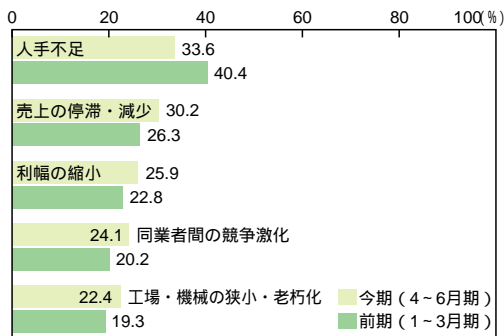
■7～9月期の予想

予想業況判断DIは11.2。4～6月期に比べ改善する形となった。

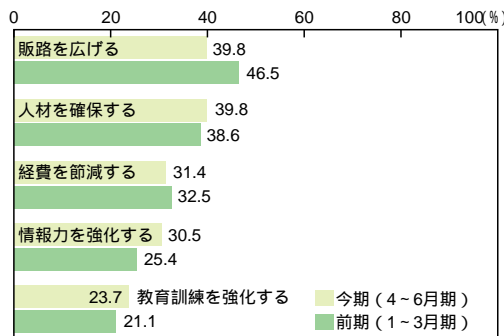
売上数量の判断DIは再びプラス〔増加〕転じる予想となったが、受注残は減少に転じる見通し。



経営上の問題点



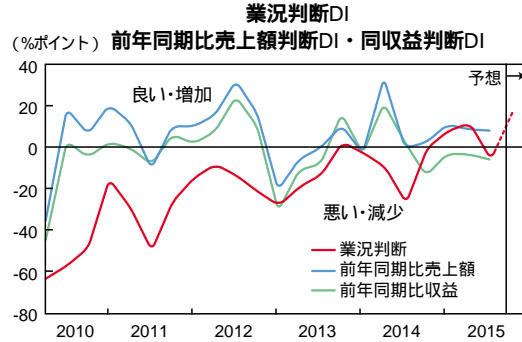
当面の重点経営施策



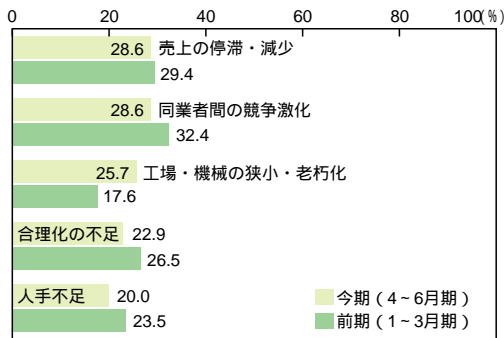
▶ 【金属製品】

業況判断DIは 5.5。1~3月期(11.8)にくらべ悪化した。悪化は1年ぶり。前年同期比売上額判断DIは8.3〔増加〕、同収益判断DIは 5.5〔減少〕。ここにきて製品在庫の増加傾向が目立つようになっている。

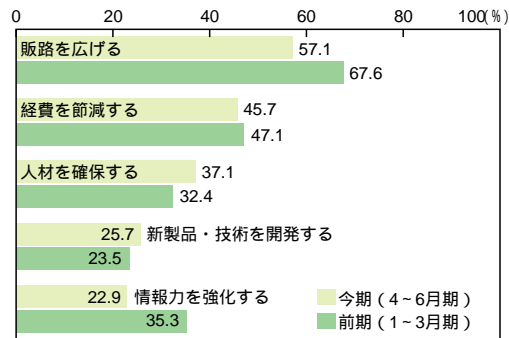
予想業況判断DIは16.7と、改善する見通し。



経営上の問題点



当面の重点経営施策

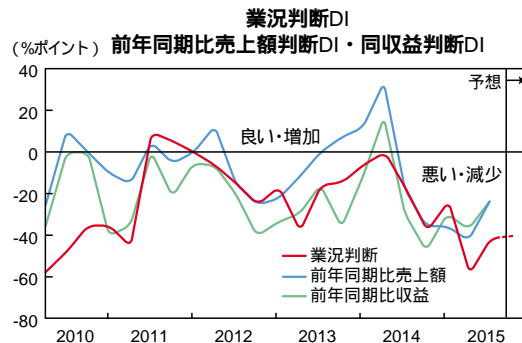


▶ 【窯業・土石】

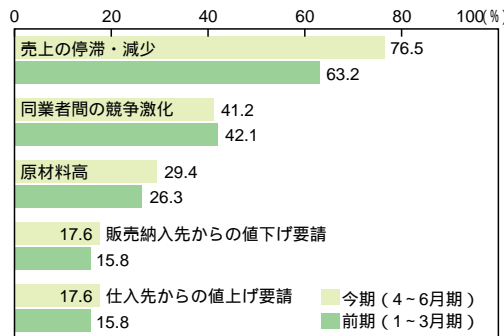
業況判断DIは 41.1となり、1~3月期(57.9)にくらべ改善した。しかし、深い水面下にあって景況感は冴えない。前年同期比売上額判断DIは 23.6、同収益判断DIは 23.5。減収減益が続いている。

このところ製品在庫が積み上がっており、資金繰りが悪化している。昨年4月の消費税増税が依然として響いているのではないかと懸念されている。

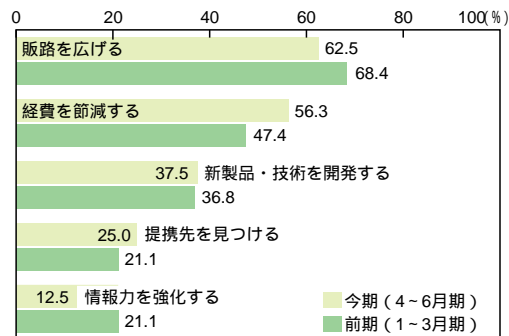
予想業況判断DIは 40.0と、横ばいの見通し。



経営上の問題点



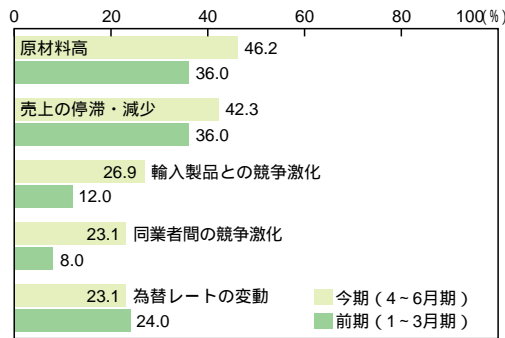
当面の重点経営施策



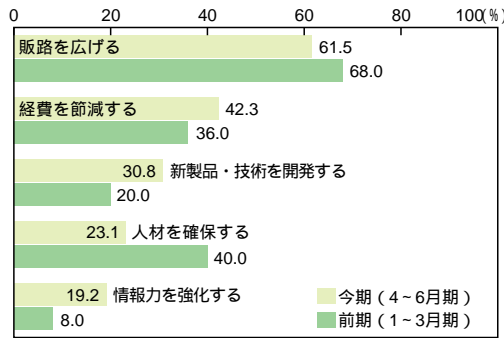
□ 【 繊維製品 】

業況判断DIは 7.7。1～3月期（ 15.4 ）
 にくらべ改善した。3四半期連続の改善とな
 ったが、前年同期比売上額判断DIをみると
 15.4〔減少〕、同収益判断DIも 7.7〔減少〕
 と、今ひとつ冴えない面がみられる。経営
 上の問題点では「輸入製品との競争激化」
 「同業者間の競争激化」をあげる企業が増え
 ているのが目立ち、経営環境の厳しさがう
 かがえる。

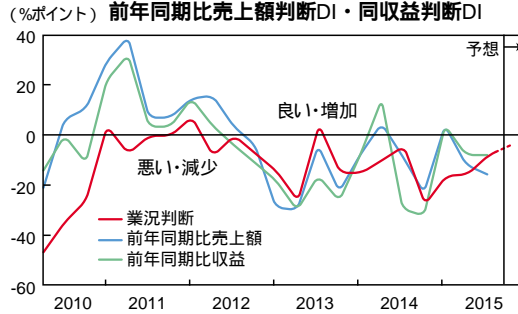
経営上の問題点



当面の重点経営施策



業況判断DI

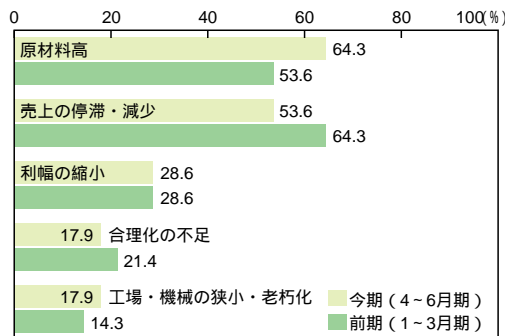


□ 【 食料品 】

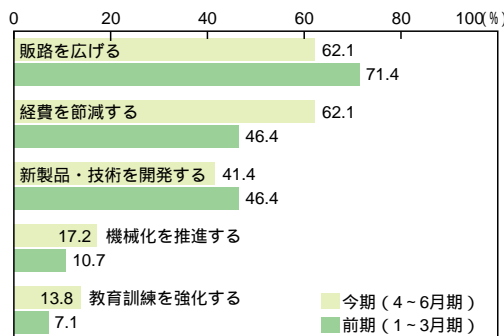
業況判断DIは0.0。2007年10～12月期以来、
 7年半ぶりにマイナスを免れた。業況を「良
 い」と回答した企業が増えている。前年同
 期にくらべた売上額や収益の減少は続いて
 いるが、その傾向は弱まっている。ただ、
 円安の進行で原材料価格が高騰。これが経
 営の足枷になっているところも少なくない。

予想業況判断DIは 10.3と、再び悪化す
 る予想。

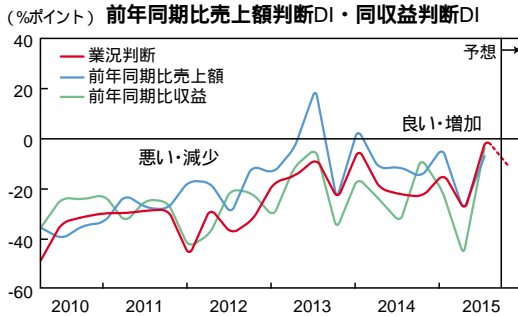
経営上の問題点



当面の重点経営施策



業況判断DI



4～6月期の景況 3期ぶりに景況感改善、収益は伸びを欠く

7～9月期の予想 景況感プラスへ、建設材料卸が持ち直す

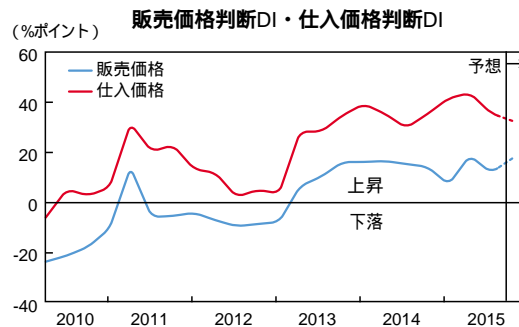
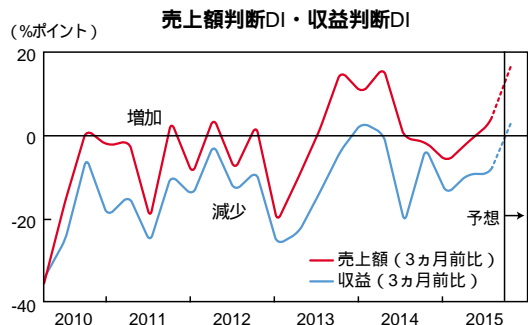
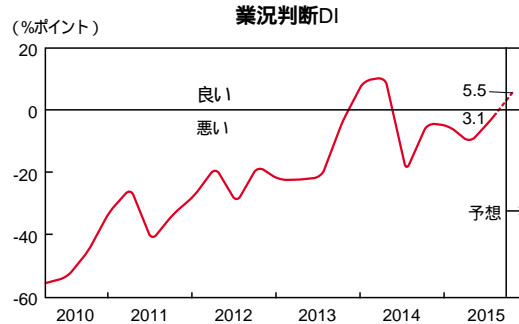
■4～6月期の景況

業況判断DIは 3.1と、1～3月期（ 10.5 ）に比べ改善した。改善は3四半期ぶり。農畜産物・水産物卸、食料・飲料卸、機械器具卸が改善する一方、建設材料卸は大幅に悪化した。

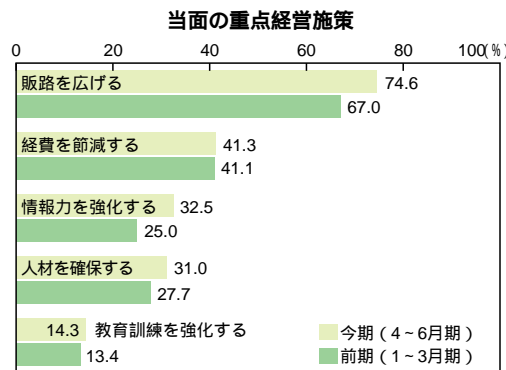
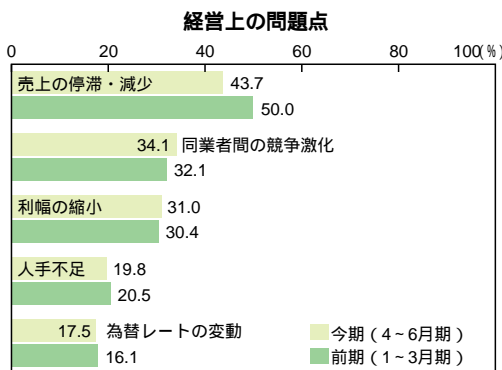
足元の売上は上向いているが、全体的として収益に伸びを欠いた模様。円安で輸入品の値上がりが続いており、それが利益を圧迫する要因のひとつになっている。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは5.5。4～6月期に比べ改善し、プラスに転じる見通し。引き続き機械器具卸は好調を維持、建設材料卸にも持ち直しがみられそうだ。



業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月(予想)
農畜産物・水産物	0.0	33.3	16.6	33.3
食料・飲料	7.7	25.0	0.0	0.0
機械器具	14.2	25.0	43.4	40.0
建設材料	5.0	0.0	33.4	4.8



4～6月期の景況 9年ぶりの増収増益に、「アベノミクスで好調」の声も
 7～9月期の予想 業況判断は悪化の見通し、先行き慎重な見方ふえる

■4～6月期の景況

業況判断DIは 13.4。1～3月期（ 13.6）に比べ横ばいとなった。依然マイナス域にあって、全体として景況感が良いとは言えないが、なかには「アベノミクスで好調」といった声も聞かれるようになってきている。

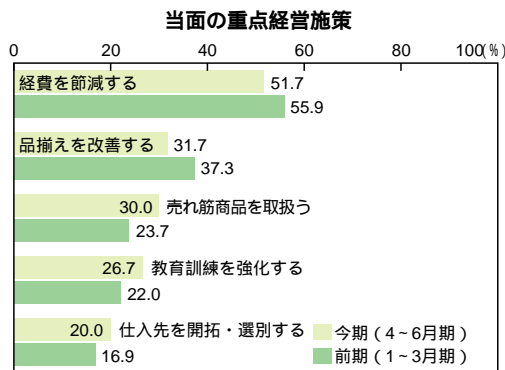
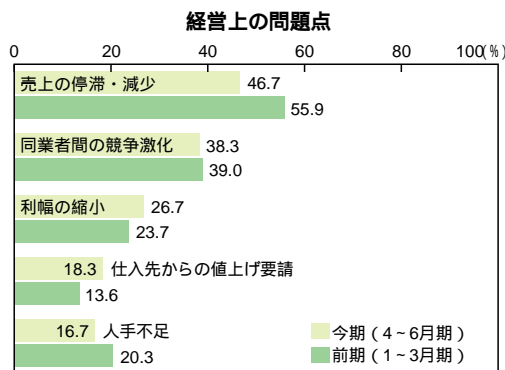
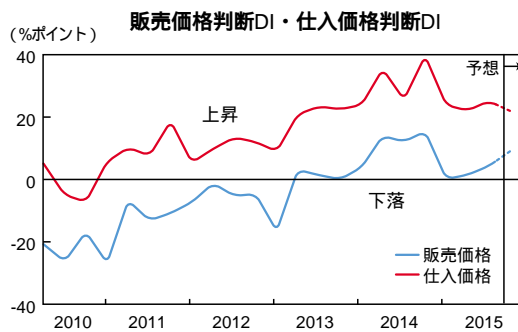
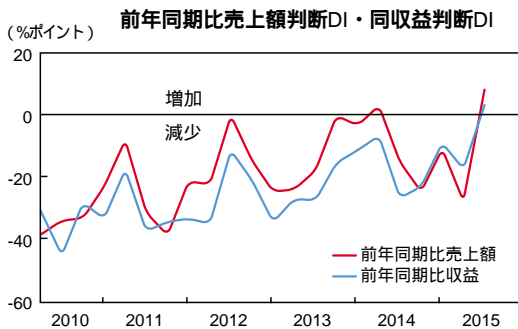
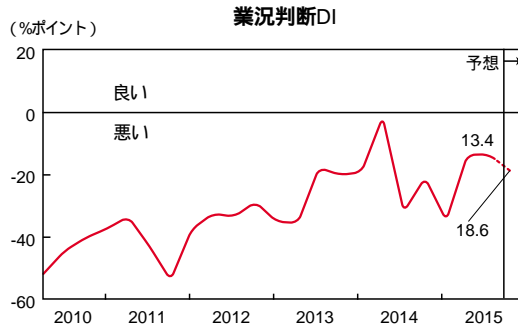
足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは8.3〔増加〕、同収益判断は3.4〔増加〕。昨年4～6月期が消費増税前の駆け込み需要の反動で大きく落ち込んでいたその影響もあるが、ともにプラスになるのは2006年4～6月期以来9年ぶり。

販売価格と仕入価格のDI推移をみると、十分に価格転嫁が行われていないことがうかがえ、企業収益の伸びは限定的なものにとどまっているとみられる。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 18.6と、悪化の見通し。先行きを慎重にみる向きが少なくない。

当面の重点経営施策は「経費の節減」が首位。



4～6月期の景況 景況感3期連続の改善、食材高騰が収益を圧迫
 7～9月期の予想 改善基調が続く見通し、仕入価格の上昇を懸念

■ 4～6月期の景況

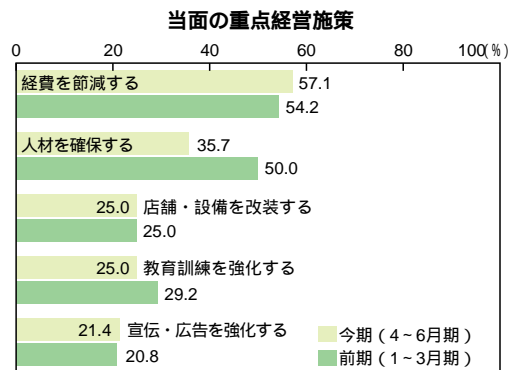
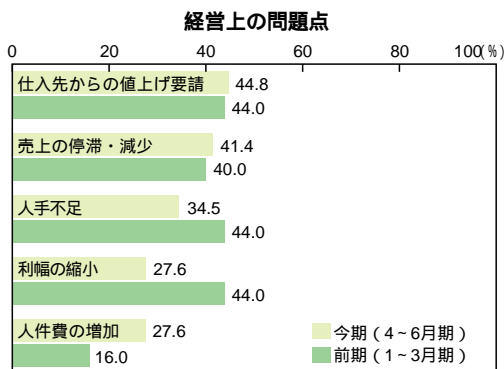
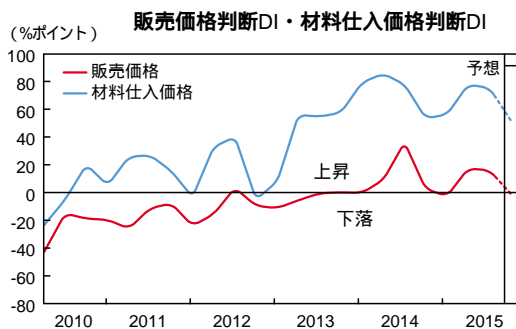
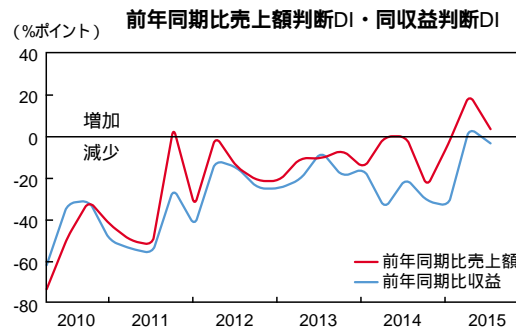
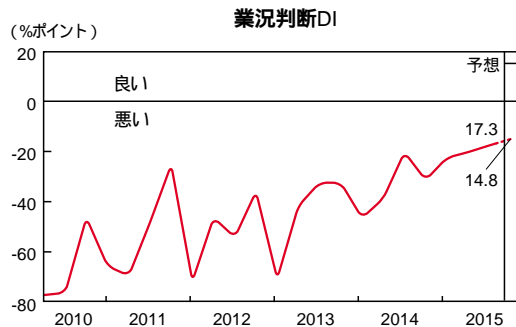
業況判断DIは 17.3。1～3月期（ 20.0 ）に比べやや改善した。改善は3四半期連続。依然としてマイナス域にあって、全体感は冴えないものの、アベノミクス以降、改善基調が続いている。前年同期比売上判断DIは3.4と、2四半期連続のプラス。「景気が徐々に上向いてきたように感じる」という声も出はじめています。

ただ、仕入価格の上昇は収まらず、収益の圧迫要因になっている。前年同期比収益判断DIをみると 3.4と、再び減少に転じている。なかには、簡単に価格転嫁できないところまで値上がりが進んでいる食材もあるようで、「値上げがヒドイ。すこしの努力でカバーできるレベルではない」との指摘もあった。

経営上の問題点には「仕入先からの値上げ要請」がトップにあがっている。

■ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは 14.8。4～6月期にくらべ2.5ポイント上昇、水面下ながら景況感改善基調を維持する見通し。懸念材料は仕入価格。引き続き上昇が予想されている。



4～6月期の景況 売上・収益に持ち直し、住宅建設も改善

7～9月期の予想 判断DIはやや改善も、人手不足感は収まらず

▶ 4～6月期の景況

業況判断DIは2.1。10四半期連続のプラスとなったが、1～3月期（11.8）にくらべ悪化した。悪化は1年ぶり。公共工事を主体とする企業の業況が振るわなかった。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは8.4〔増加〕。同収益判断DIは1.4〔増加〕。消費増税から1年が過ぎ、売上や収益に持ち直しの傾向がみられる。増税後、回復の遅れていた住宅建設を主体とする企業にも改善がみられた。

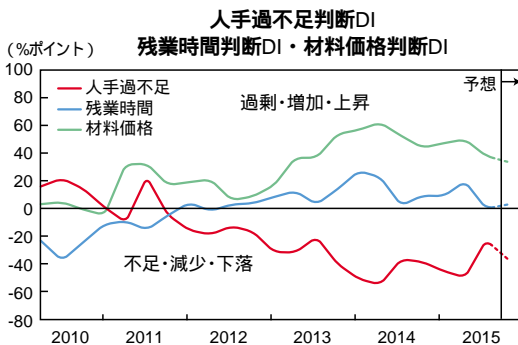
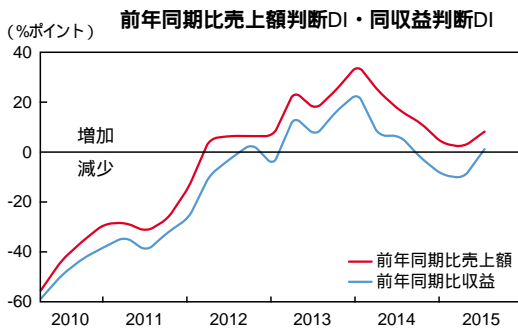
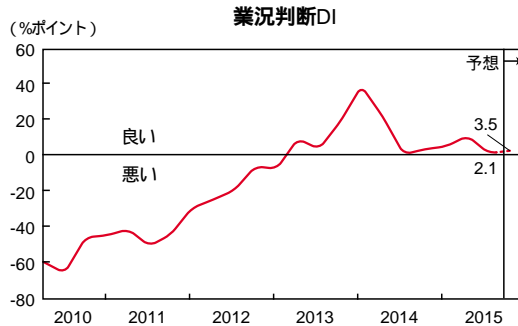
職人を中心に人手不足は慢性化している。仕事があっても受注を断念せざるを得ないケースもあるようである。

▶ 7～9月期の予想

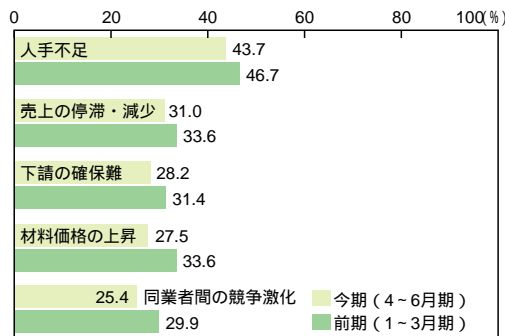
予想業況判断DIは3.5と、4～6月期にくらべ少し改善する見通し。

人手不足感は収まりそうになく、当面の重点経営施策には過半数の企業が「人材の確保」をあげている。

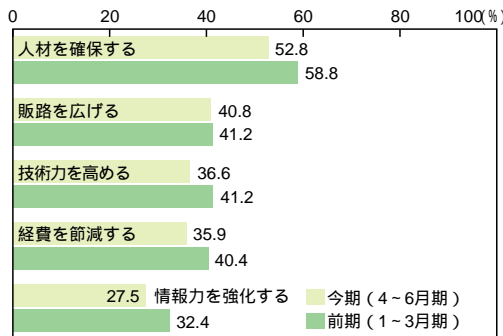
業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月 (予想)
公共工事主体の企業	8.3	23.1	34.8	34.8
一般住宅主体の企業	17.8	7.7	7.1	14.3



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 取り巻く環境が好転、景況感3期連続の改善

7～9月期の予想 DIのプラス維持、重点施策に「情報力の強化」

▶ 4～6月期の景況

業況判断DIは15.0となり、1～3月期(13.2)に比べ改善した。改善は3四半期連続。DIの水準としては全業種中で最も高い。前年同期比売上判断DIは30.0〔増加〕。同収益判断DIも30.0〔増加〕。2四半期連続の増収増益。

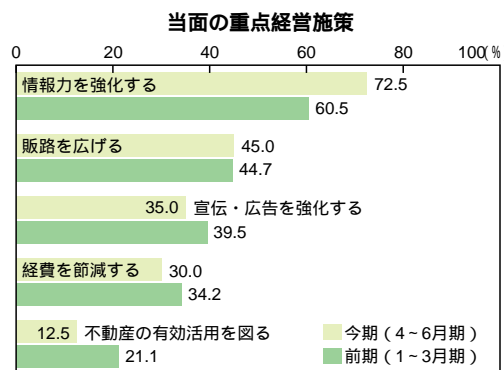
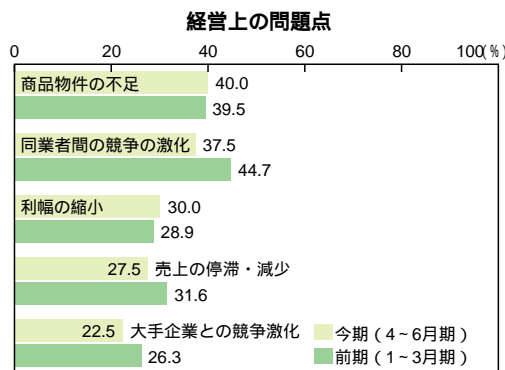
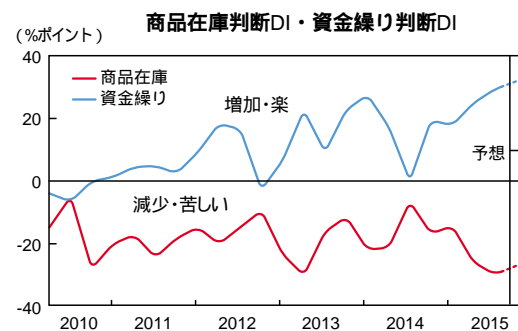
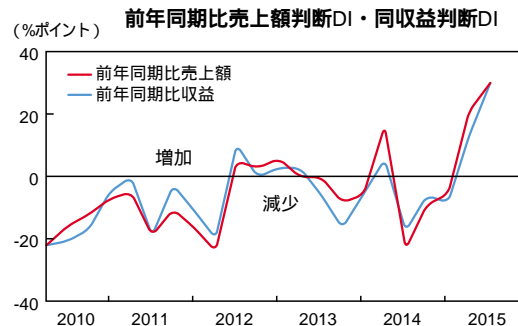
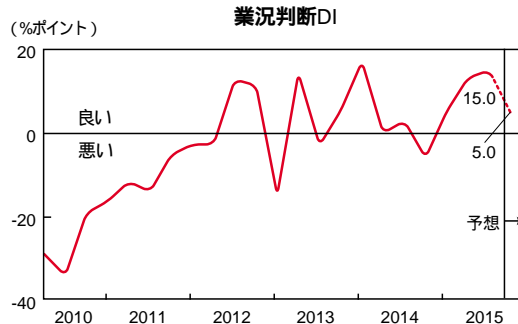
「今年になって少しずつ来店客が増えている」「トヨタ系列企業の業績の良さが好影響を及ぼしている」といった声があがっており、業界を取り巻く環境は好転しているとみられる。

経営上の問題点では4割の企業が「商品物件の不足」を指摘している。

▶ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは5.0。4～6月期に比べ悪化する見通しとなったが、プラスは維持できそうで、マインドは底堅く推移するのではないか。

当面の重点経営施策をみると、「情報力の強化」をあげる企業が増えている。



4～6月期の景況 1年ぶりにマインド悪化、燃料価格の上昇が影響か
 7～9月期の予想 DIが水面下へ、重点施策に「労働条件の改善」増える

■4～6月期の景況

業況判断DIは0.0。1～3月期（18.2）にくらべ悪化した。悪化は1年ぶり。このところの原油相場の上昇を背景に燃料が再び値上がりしており、これが多少ともマインドに影響したのではないかと見られる。燃料価格判断DIは6.4〔上昇〕となった。

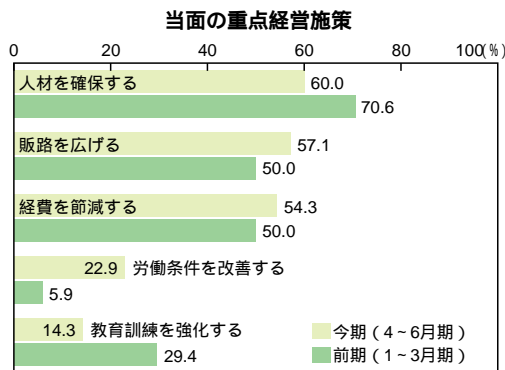
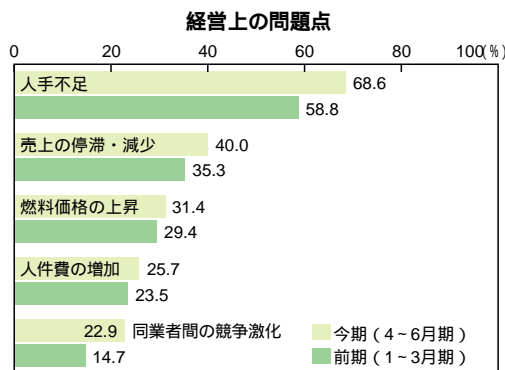
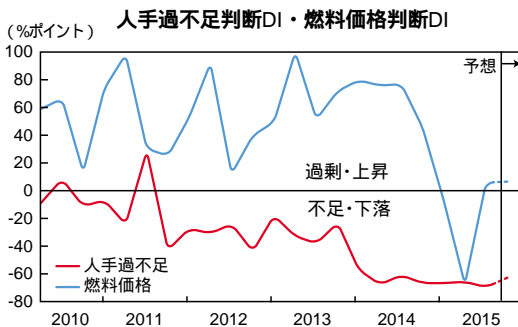
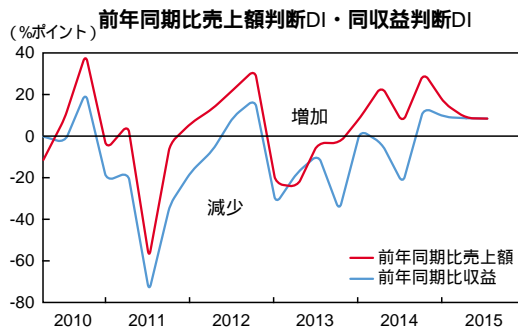
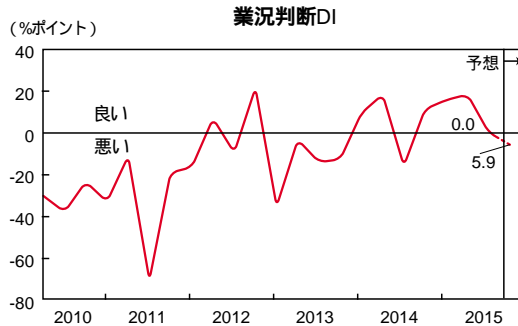
ただ、売上や収益には底堅さもみられる。前年同期比売上額判断DIは8.6、同収益判断DIも8.6と、ともにプラスを維持。4四半期連続の増収増益となっている。

人手過不足判断DIは 68.6〔不足〕。マイナス幅は全業種中最大で、人手不足の深刻さをうかがえる。経営上の問題点に「人手不足」をあげる企業が7割近くある。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 5.9。4～6月期にくらべ悪化し、マイナスに転じる見通し。

人手不足は今後も続きそうで、当面の重点経営施策には「人材の確保」がトップにあがっている。また今回は「労働条件の改善」のポイント増加も目についた。



4～6月期の景況 景況感はプラスを維持、売上・収益も増加

7～9月期の予想 判断DIマイナスへ、法人向けサービスが悪化

■ 4～6月期の景況

業況判断DIは8.7。1～3月期（12.7）にくらべ悪化した。前回調査時の予想（6.9）がマイナスだったことを思えば、総じて底堅い景況だったのではないかと見られる。

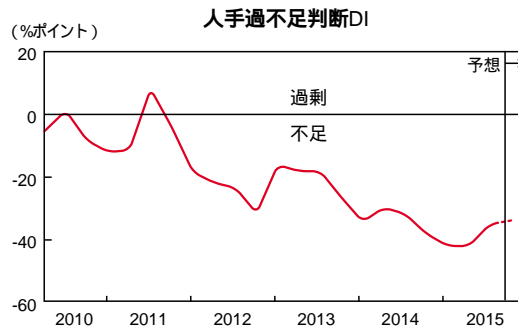
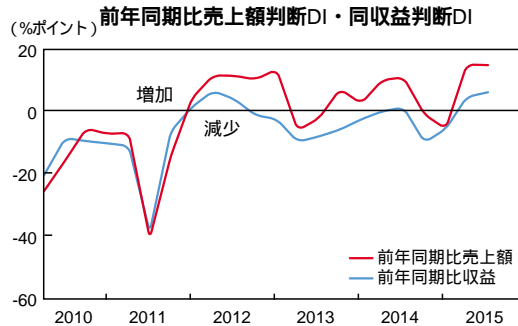
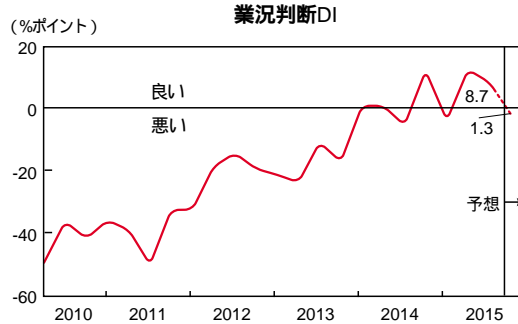
法人向けサービスは19.7。悪化したもののプラスを維持。個人向けサービスは10.4。改善がみられたが、水面下にとどまった。法人向けサービスが全体を牽引する構図は変わっていない。

前年同期にくらべた売上額と収益の判断DIは、ともに2四半期連続のプラス。人手過不足判断DIは、不足域での推移が続いている。

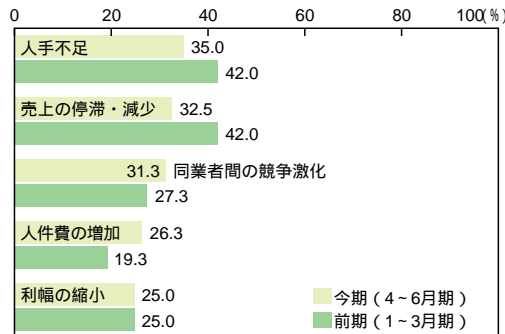
■ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは1.3。4～6月期にくらべ悪化し、マイナスに転じる見通し。法人向けサービスの悪化予想が全体を押し下げている。

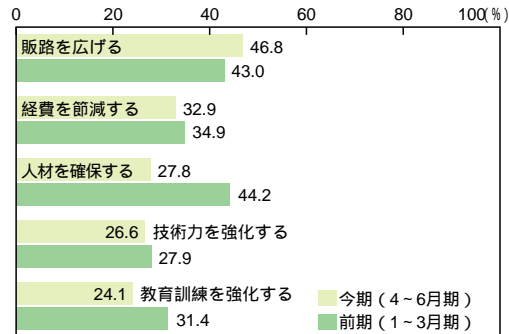
業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月 (予想)
法人向けサービス	10.3	35.8	19.7	3.9
個人向けサービス	30.0	23.5	10.4	10.3



経営上の問題点



当面の重点経営施策



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

受注が増えている。これまで高かった電気料金が是正され、原材料価格も値下がりしている。(機械部品)

景気は回復しているが、車種のマイナーチェンジの時期を控えているため、売上が減少している。今は秋からの増産に向けての苦しい時期。増産に向けては、人員の抱え込みや工程の組み換えなどをしなければならず、資金に余裕のない中小企業の厳しさは大変なものだ。(自動車部品)

関東や東北の公共事業の影響からか、地元の“寒さ”を肌で感じる。インフラ整備において、国政、県政、市政それぞれが“地産地消”で地場を元気づけてほしい。(鉄線加工)

円安で海外向けの仕事が増加。(自動制御装置)

円安で輸入原材料が高騰。大手企業は下請会社(協力会社)の危機感がまったく分かっていない。ベースアップの3分の1ぐらいを下請けコストに反映させては如何なものか。(産業資材織物)

品質に対し、すごく厳しくなっている。(産業資材織物)

政府の円安誘導政策は輸出企業や大企業を潤わせているが、圧倒的多数の中小零細企業は困っているのが実情ではないか。国内の消費はまだまだ本物ではない。しかも輸入原材料はどんどん値上がりしている。企業間競争が激しくなっており、製品の値上げができる状況にはない。円レートは100円ぐらいが妥当ではないか。(せんべい)

大手企業の業績は良くなっているはずだが、なお値下げの要請がある。(金型・治具)

円安で原材料が高騰。人手も不足している。(菓子)

当社は従業員10人ほどの企業。毎年春に3000円ほど賃上げしているが、もともと給与がとても少ない会社なので、従業員に申しわけないと思っている。(石材)

輸入資材の供給が現地の事情で不安定になっている。代替品を検討しているが、これというものが見つからない。この先、円安で価格の高騰も予想される。(木製部材)

企業間格差の拡大で零細企業が消滅し

てしまうのではないか。大企業が進める内製化によって仕事が無くなる方向に向っていると感じている。正規雇用者が減少し、失業者が増加、国全体が縮んでいくのではないか。(工業用ゴム製品)

円安で輸入材料の価格が上昇。単価アップを得意先に交渉しているが、なかなか実現しない。(プレス型鋳物)

他社が倒産。それで注文が増えた。(人形)

地元大企業のひとり勝ちの雰囲気がある。これは中小零細企業に良い影響を及ぼさない。もっと下流へ仕事がまわるように考え方を変えるわけにはいかないものか。(金型)

開発案件や特許案件に関連して大手メーカーの来社が増え、社員のモチベーションが向上している。会社のブランドカアップにも繋がっている。ただ、

少人数でやっていると時間が足りない。計画にズレが生じることもある。(金型)

受注の急激な増加で作業手順が変わってしまった。このことが減益要因になると懸念される。(クレーン・ホイスト)

建築関連の仕事が多少増えている。(油圧・空圧バルブ)

前期に量産が始まった車種の生産が当初の計画より伸びているため、増収増益が見込めそうである。(自動車部品)

全体として業界が動き出している印象を受けている。ただ、通常よりも調達に困難な部品やサービスがある。(制御機械)

全体的に受注が増えている。ただ、短納期のものが多く、残業が増加している。その割りに単価は据え置かれているので、却^{かえ}ってキツイ面もある。(機械加工)

卸売業のお客様

震災後、粘土瓦需要が減少して、板金屋根材のシェアが増加。(建築材料)

円安で仕入価格が急上昇。販売価格に転嫁できず、先々真っ暗な状況。(木材)

同業者の廃業で取引先が増加。天候不順で野菜価格が高騰、商品が不足した。(青果物)

震災復興や東京オリンピック開催の関

係で、今後5年くらい業界は成長が見込める。(道路資材)

全体的に商品単価の上昇がみられる。(生コン)

納品先からの値下げ要求がよくある。(一般機械)

小売業・飲食業のお客様

1～3月に値引きやオプションサービスなどのキャンペーンを打った反動で、4～6月は売上が減少している。(自動車販売)

4月の長雨で野菜が高騰。消費者の買い控えが発生している。(スーパー)

人材が不足している。(弁当)

特定銘柄(コシヒカリなど)や低価格帯のコメの品薄感が出はじめており、仕入価格が上昇しつつある。他方、販売価格は量販店が一層の値下げをしているため、価格差が広がっている。量販店が値下げしているのは、販売が伸

びないため。(米穀店)

アベノミクスの影響で好調。(バイクショップ)

季節菓子がよく売れている。(和菓子)

アベノミクスはマインド先行・株価先導と批判されているが、景気(実体経済)は徐々に上向いてきたように感じる。(FC事業)

景気は本当に良いのだろうか?と感じている。相変わらず材料の値上げがヒドイ。もはや少しの努力で何とかなるレベルではない。(イタリア料理店)

建設業・不動産業のお客様

自動車業界の設備投資が増加している。(配管設備)

消費増税の影響で住宅や不動産の購買意欲が低下しているが、相続税対策として住宅の建築やリフォームを考えるお客さまもいる。(建設業)

一部の業者が価格破壊をしている。理由がわからない。(建設業)

中小企業まで景気回復が浸透していない。マイナンバー制度への対応準備や賃上げなど、会社が負担するものも多い。雇用助成金も一過性のもので長期的に見れば苦しい。(土木建設)

施工管理者や専門職人が慢性的に不足。官庁発注の物件、地震対策案件の増加。製造業の既存建物の改修工事・改善工事が増えている。(建設業)

住宅を取り巻く環境が思っていた以上に悪い。業況の改善が遅れている。(地盤改良)

平成27年度の役所の土木予算が少ない。(土木工事)

昨年4月の消費税率の引き上げで、来客が減り、売上げもかなり落ち込んだが、今年になって少しずつ来客が増えている。今後に期待している。(不動産業)

民間工事の受注件数が増えている。(土木工事)

民間工事の受注は増えているが、選挙の影響からか、公共工事の発注が遅れている。(土木建設)

増税にともない新築案件が減っている。地元工務店のほうが、ハウスメーカーよりもスキルがあって価格も安いということが伝わらないまま、お客さまをハウスメーカーに奪われている。それが問題点のひとつ。(一般住宅)

トヨタ系列企業の業績の良さが当社に好影響を及ぼしている。(不動産仲介)

売れる土地と売れない土地の格差が出ている。(不動産仲介・売買)

ローカルな当地域においても、少子高齢化(人口減少)による顧客の二極化(若年層・シニア層)や所得格差、ニーズの多様化など、すべてに変化の兆しを感じる。(建売住宅販売、不動産仲介)

運輸業・サービス業のお客様

人材が不足している。(運輸業)

従業員が高齢化している。(美容院)

事業は順調に進んでいるが、昨年よりも人手が不足している。給与・賞与を他社と比べつつ、魅力ある仕事(環境)をアピールして“人財”を確保していく。早めに手を打たないと、うずもれてしまうと考えている。(給排水管設備工事)

蒲郡から岡崎のあいだで盗難が頻発。当社も被害に遭った。以前よりも治安が悪化している。保険と警備を強化する予定。(自動車修理)

昨年は伊勢神宮の式年遷宮の関係でホテル・旅館などに宿泊客が多かったの

で、それが業績に貢献したが、今年はその反動が出ている。(リネンサプライ・ホームクリーニング)

今の景気は中小企業にとってプラスになる景気ではない。大手企業だけでなく、中小企業にもプラスになる経済環境にしてもらいたい。何ひとつプラスになることが起きていないのが現実!(産業廃棄物運搬)